

第13回「日本語大賞」

テーマ「 」に伝えたい言葉

小学生の部 優秀賞 受賞作品

がまんがまんの子であった

千葉県
湘南ゼミナール 薬園台教室
小学五年 吉原 颯一郎

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

がまんがまんの子であった

湘南ゼミナール 薬園台教室 小学五年
吉原 颯一朗（よしはら・そういちろう）

ぼくには忘れられない言葉があります。五年前の春休みじいちゃんが亡くなった知らせを聞いたぼくは、涙が自然とあふれだし大好きなじいちゃんとの思い出ばかりよみがえり、さみしくて、会いたくて、でももう会えなくて、声も聞けなくて、と色々な感情でたまらない気持ちになり、大切な人を失うという事を初めて実感しました。そして、涙がかれるほど泣いたのもこの時が最初で最後だと思います。その時思い出した言葉が「がまんがまんの子であった。」です。

じいちゃんは遠くはなれてくらししているのになかなか会えないけれど、遊びに行くといつもやさしい笑顔でむかえてくれ、あまりしゃべらずおとなしいけれど、ぼくが兄とケンカしたりわがままばかり言って母をこまらせたりすると、いつもやさしくほほえみながら「がまんがまんの子であった。」と言ってぼくたちの心をおだやかにしてなぐさめてくれていました。この言葉を聞くとみんな自然と笑顔になって仲直りしてしまうま法の言葉なのです。

今この言葉をじいちゃんから聞く事は出来ないけれどこの言葉のおかげでぼくはがまん強く成長しました。いやな事があっても、つらい事があっても、いつもじいちゃんが心の中にいてくれて応えんしてくれているからです。そして、「じいちゃんおねがい。」とむねに手をあてて話しかけると、いつも「がまんがまんの子であった。」とじいちゃんの心の声が聞こえてきてぼくはどんな事でもがんばれるのです。

これからもぼくはじいちゃんの事を忘れないし、心の中にいるじいちゃんにいつもたよってばかりだと思えます。でも、大人になるまでもっとたくさん事を経験してたくさんの人と出会ってたくさん事を学びながらじいちゃんの言葉にたよらなくても自分でどんな事でも乗りこえられるような大人に成長したいと思えます。

そしてじいちゃんに伝えたい事があります。「じいちゃん、すてきな言葉をありがとう。ぼくはがまん強い男の子に成長したよ。だけでもう少しじいちゃんの心の声にたよらせてください。まだ五年生だから少し不安で自信がない所があるから。もう少しじいちゃんのままの言葉をお願いします。よろしくね。じいちゃん。」